

中国語母語話者による日本語従属節選択の誤用傾向

—『日本語学習者による日本語作文とその母語訳との
対訳データベース』を用いて—

塩 入 す み

はじめに

英語コーパスに比べれば、日本語コーパスはまだ数量と使用の歴史が不足しているものの、近年は国立国語研究所による大規模コーパス『現代書き言葉均衡コーパス』や、インタビューデータである KY コーパス等が構築、公開されており、コーパスの種類や数、そしてそれを使用した語学研究や習得研究も急増している。

日本語コーパスのうち、日本語学習者の日本語作文やインタビュー等のいわばアウトプットのデータを集めた「学習者コーパス」(learner corpus) は 1990 年代から注目されるようになった。学習者コーパスは、宇佐美 (2006) が指摘するように、数量的に信頼性の高い分析を可能にするとともに、研究者や教育者の主観的経験から得られる知見とは異なった知見を提供できるという意義をもっており、多方面での利用が期待される。

日本語の学習者コーパスはデータの種類から見て、まず話し言葉を対象としたものと書き言葉を対象としたものに分けられる。上述の KY コーパスは ACTFL の Proficiency ガイドラインに基づいてレベル分けされた 90 名の学習者のインタビューデータであり、話し言葉の学習者コーパスとして活用されている。ほかにも名古屋大学留学生センターで公開されているもの等、近年は徐々にその数も増えている。

本稿で扱う『日本語学習者による日本語作文とその母語訳との対訳データベース (ver.2)』(以下作文対訳 DB と呼ぶ) (国立国語研究所, 2001) は、日本語の書き言葉の代表的な学習者コーパスとしてすでに語学及び語学教育研究において活用されているが、それまでの学習者コーパスにはない 2 つの特徴をもっている (宇佐美, 2006)。1 つは学習者本人による母語訳がついていること、2 つ目は添削者による添削情報がついていることである。これにより、学習者の母語と日本語との対照研究はもちろんのこと、習得研究における母語の干渉、さらには添削という作業や添削者をめぐっての研究も可能である。本稿ではこの作文対訳 DB を用いて、日本語従属節に関する中国語話者の誤用傾向を明らかにすることを目的とする。

従属節に関する中国語話者の誤用傾向については、すでに塩入 (2002) において台

湾において収集したデータを用い、中国語母語話者の日本語作文における従属節選択の問題を検討しているが、本稿では作文対訳 DB のデータを用いた分析結果を塩入 (2002) と比較しつつ、中国語母語話者による日本語従属節選択の誤用傾向について論じたい。

1. データについて

1.1 対象としたコーパスについて

対象とした作文対訳 DB は国立国語研究所が 1999 年度から 2000 年度にかけて、アジア 10 カ国 (中国・インド・カンボジア・韓国・マレーシア・モンゴル・シンガポール・タイ・ヴェトナム・日本) から約 1,100 編の日本語による作文のデータを集めたものである。以下、宇佐美 (2006)、井上 (2006) により作文対訳 DB について概観しておく。

作文対訳 DB に収められているデータは以下のものである。

日本語学習者による日本語作文

の執筆者による母語訳

日本語教師による の作文の添削

作文執筆者及び添削者に関する情報

作文対訳 DB のデータの収集は、国立国語研究所より日本国内外の日本語教育機関に協力を依頼して行われた。該当する日本語教育機関は大学を主としており、日本の日本語学校等の学習者も少数含まれるものの、全体としては日本語学習歴や年代のレベルがかなり統一されたデータと言ってよい。データ収集の手順は以下の通りである。

作文課題の選択

作文の課題は、「あなたの国の行事について」「たばこについてのあなたの意見」の 2 つである。ただし、教師が選択した場合もある。カンボジアについては、喫煙者が極めて少ないという事情から、「外国からの援助について」という課題を与えている。また、執筆の際には辞書を使用してもかまわないとされ、辞書を使用する際は申告することとした。

日本語作文の執筆と母語への翻訳

日本語の作文を執筆後、本人がその作文を見ながら母語への翻訳を行った。翻訳は大幅な意識を避けるようにした。また、自宅で行ってもよいこととした。

作文の添削と電子化

基本的に 1 編の作文に対して 12 名の添削者が添削を行い、添削情報も合わせて電子化した。

以上のような手順により収集されたデータのうち、本稿では と の中国語母語話

者名の作文のデータ 89 編を対象とする。

1.2 被験者について

中国語母語話者の被験者 89 名のうち、台湾出身者 3 名以外は中国国籍である。日本語学習歴は、台湾出身者の 3 名及び中国国籍の者の大多数が自国の大学または学院で日本語を 2 年から 3 年程度専門として学んでいる大学生である。被験者の条件としては、「日本語で原稿用紙 2 枚程度の分量の文章を自力で書けること」というもので、結果として大学 2 年次後半以降の学生を被験者としている (宇佐美, 2006)。被験者の日本語学習歴は自分で記録しているものがあるが、おおよそ中級以上の学習者である。

1.3 作文対訳 DB の位置づけ

井上 (2006) は作文対訳 DB で可能な対照研究について論じ、対訳資料としての対訳 DB の位置づけを明らかにしている。さらに、作文対訳 DB を利用する場合、「学習者は日本語作文を自分の言語でこのように訳している」ということが言語学的にどのような意味を持つかについて、十分な検討が必要である (井上, 2006) と指摘している。つまり、文学作品等の対訳と異なり、対訳が最初から学習者が母語で書いた文章ではないため、その言語 (ここでは中国語) の文章としては必ずしも自然ではないところや、日本語作文の影響が見られるところがあるので、日本語作文とその対訳を比較するだけでは対照研究としては成立しにくいということである。

このような対照研究に用いる場合の問題や限界について留意しつつ、改めて作文対訳 DB の日本語作文とその対訳から何がわかるのかについて確認しておきたい。

学習者による日本語作文はいわゆる中間言語であり、母語話者の日本語に比べれば不自然な点をもっている。一方、その対訳も日本語を翻訳した不自然な言語ではあるが、学習者の言語形式の習得を観察する場合に重要なのは、寧ろその不自然な、中間言語的な母語である。すなわち、井上 (2006) の言うところの「学習者は日本語作文を自分の言語でこのように訳している」ということが、「学習者は日本語の言語形式をこう理解している」ということの現れであり、対訳は習得の過程を観察することのできる貴重なアウトプットであると考えられる。したがって、作文対訳 DB は、対照研究に利用するには多くの問題を含んでいるが、言語の習得過程を考察するには非常に有益な資料であると考えられる。

1.4 塩入 (2002) について

塩入 (2002) は台湾の東呉大学日本語学科 3 年生の、1999 年 9 月より 2000 年 5 月まで延べ学習者数 47 名による 1 年間の作文 696 編を対象としたもので、誤用のうち、

他の従属節との選択に関する誤用を中心に、誤用例 815 例を対象としている。したがって、活用や接続の誤り、従属節内のテンスの誤り等は含まれていない。この点が今回の調査項目と大きく異なる点である。

学習者のレベルは、大学の日本語専攻の3年生ということで、今回調査した対訳DBの被験者と似たレベルであると考えられる。調査の方法で異なるのは、塩入(2002)には対訳がないことと、延べ学習者数が少ないこと、他の従属節との選択に関する誤用を中心に扱っていること、テーマが多様であること等である。

この調査では、従属節の誤用例のうち、とくに「の/こと」節と、中止節及び条件節との間の形式選択に関する誤用について分析と考察を行った。「の/こと」節と条件節という一見選択の問題があるとは考えにくい、いわば連体と連用の間での誤用傾向が中国語母語話者に多いことを述べ、その理由として日本語の言語形式の習得不足や、中国語による干渉があることを指摘した。

表1 他の従属節選択に関する誤用(塩入, 2002)

従属節のタイプ / 誤用数	従属節のタイプ / 誤用数	従属節のタイプ / 誤用数
<中止節> 269 例 (33.0%) (注1)	<条件節> 88 例 (10.8%)	<時間節> 60 例 (7.4%)
連用中止 (注2) 基本形 2	すると 中止節 20	とき 27
て形 連用形 3	他の条件節 23	と同時に 5
条件節 88	理由節 1	てから 11
副詞節 3	の・こと節 1	あと 8
接続節 25	基本形 1	まえ 3
時間節 2	その他 6	うち 3
の・こと 12	<基本形> 86 例 (10.6%)	まで 2
基本形 10	中止節 22	その他 1
文の終了 13	条件節 17	
なくて・ないで 49	理由節 5	
だけ等 34	接続節 24	
その他 5	時間節 1	
	の・こと節 12	<並列節・接続節> 58 例 (7.1%)
<の/こと節> 115 例 (14.1%)	その他 5	が 23
の こと 21	<理由節> 85 例 (10.4%)	けれども 11
こと の 5	から 50	たり 2
の/こと 中止節 4	ので 26	し 22
条件節 21	ために 3	
副詞節 8	せいで 2	
理由節 3	で 4	
接続節 6		
時間節 1		
基本形 5		
~のは~ことだ 29		
その他 12		

注1: %はDBのうち中国語話者による従属節の誤用総数 815 に対する割合を示す

注2: は他の適切な形式を表す

2. 調査の結果と比較

2.1 調査の結果

作文対訳 DB のうち、中国語母語話者による従属節に関する誤用は延べ 188 例であった。それぞれの形式と数を表 2 に示す。

表 2 作文対訳 DB における中国語母語話者による従属節の誤用

従属節のタイプ / 誤用数	従属節のタイプ / 誤用数	従属節のタイプ / 誤用数
<中止節> 53 例 (28.2%) (注1)	<基本形> 21 例 (11.2%)	<の/こと> 10 例 (5.3%)
活用形	動詞辞書形 の/こと 4	のは かは 2
て形 (注2) 辞書形 9	て形 3	の 1
条件節 8	並列節 3	の こと 1
理由節 2	条件節 2	のが なら 1
並列節 2	動詞否定形 なくて/ず 3	のを ように 1
の/こと 2	動詞辞書形 逆接節 2	こと φ (注3) 1
連用形 1	形容詞辞書形 条件節 2	こと 引用(と) 1
辞書形 1	動詞辞書形 様態節 1	ことや したり 1
連用形 1	形容詞辞書形 連用形 1	こと の 1
なくて ないで 1	<条件節> 11 例 (5.9%)	<逆接節> 8 例 (4.3%)
ないで なくていい 1	ては たら/ば 2	が 6
<時間節> 31 例 (16.5%)	と ので 1	けれど 1
にしたがい 5	ば 1	のに 1
とき(に) とき(に)は 4	ても 1	<並列節> 7 例 (3.7%)
につれて 4	とすぐ と 1	たり 4
とき(は) 4	なら と 1	とか 1
あと 3	ば のは 1	一方で 1
同時に 3	のだから 1	し 1
とともに 2	ても 1	<様態> 1 例 (0.5%)
てから 2	だけで さえ~ば 1	同じ (0.5%)
ところ 2	<引用節> 11 例 (5.9%)	<同時動作> 1 例 (0.5%)
あいだ 1	と 7	ながら (0.5%)
うちに 1	とは 2	
次第 1	とは/というのは 2	
<理由節> 19 例 (10.1%)	<目的節> 10 例 (5.3%)	
から 5	ように 5	
せい 3	しに 3	
から て/ので 1	ために 2	
から ために/せいで 1	<疑問節> 5 例 (2.7%)	
から てから 1	接続 2	
結果 1	何を どう 1	
で 1	どうするか どうすれば 1	
以上 1	するかしないか してもしな くても 1	
ので せいで/ために 1		

注1: %は DB のうち中国語話者による従属節の誤用総数 188 に対する割合を示す

注2: φは他の適切な形式を表す

注3: こと φは「こと」を削除した形式が適切であることを表す

この調査の結果、誤用の多かったものから4つを挙げると、中止節、時間節、基本形、理由節となる。一方、塩入(2002)の調査では多い順に、中止節、の/こと節、条件節、基本形となっており、中止節、基本形はやはり従属節選択の誤用では多くの数を示した。両者の順位を比較して大きく異なるのは、今回の調査で多かった時間節、また今回の調査では少なかった条件節である。

2.2 分析

2.2.1 て形選択の問題

て形の誤用について見ると、53例のうち9例はて形自体の活用に関する誤りであるものの、それを除いてもやはり従属節選択においては最も誤りの多い形式と言える。て形は日本語の文接続の際にとりあえず学習者が選択する最も安易な形式であり、誤りも多くなっている。以下、誤用の多い2つのタイプ【条件節との選択にかかわる説明】【文を終わらせるところを接続することによる誤用】について例を見ていく。

【条件節との選択に関わる誤用】

- (1) もしある人はたばこを吸いたくて、彼は専門の地方へ行くはずです。(cn085j)
如果有人想吸烟,那么请到专为吸烟者设置的地方去。(cn085c)
- (2) パーティに参加する人々は、いつもパーティのため、「どんなプレゼントをあげていいですか」と言うことを考えています。(cn081j)
被邀请的人经常为送什么礼物而感到烦恼。(cn081c)
- (3) 人々はしたい関係を表しに、いつも高いプレゼントをあたえます。そして、プレゼントの値段はだんだん高くなりました。でも、プレゼントが高くて、関係はしたいですか。(cn081j)
而且人们也逐渐形成一种观念,觉得礼物的价钱越高,就越表示两个人的关系亲密。(cn081c)

(1) のように、条件節「吸いたかったら/吸いたければ」を選択すべきところをて形にした誤用は、前回の調査でも多かった。また、(2) は助言する固定した表現「あげたら/あげれば/あげるといい」が適切であるが、「あげて」あるいは「あげるの」のような誤用が前回同様見られた。(3) は比況の形式「高ければ高いほど」や条件節「高かったら/高ければ」等を用いるところである。

【文を終わらせるところを接続することによる誤用】

- (4) 赤ちゃんが生まれた後に赤い枕をおばあちゃんからもらって、それは子供が元気に育てられるようにお祈りするという意味だ。(cn017j)
婴儿出生后从外婆那儿得到红色的小枕头。意思是祝福孩子能够健康成长。(cn017c)

- (5) テレビからパレードでの新型の武器をみたことがあります。今の世界はやはり不安定で、侵略戦争は常ねにあって、毎日地球で銃声が絶えなくて、こういう情勢で、強大な軍隊を建てる必要はあります。(cn026j)

电视上还看见了游行中的新式武器。当今世界仍不安定，侵略战争时有发生，每日枪声不绝于耳。当此形势，有必要建立一支强大军队。(cn026c)

- (6) 新年は一年中の一番重要なお祭りで中国人に「春節」と言う美しい名前を呼びられて、農歴の二日に春になるとき過こすからです。(cn073j)

新年是一年中最重要的节日，中国人因为它总在春天到来的二月份到来而给它起了一个好听的名字叫“春节”。(cn073c)

- (4)~(6) の例はそれぞれ「もらう」「絶えない」「呼ばれている」のように、そこで文を終了するのが適切であると考えられる。これらはいずれも中国語の対訳でも文を終わらせているにもかかわらず、て形で接続している例である。

2.2.2 時間節の問題

今回の調査の結果で特徴的だったのは、時間節の誤用が多かったことである。これは、与えられた作文のテーマに各国の行事を紹介するものがあり、結婚式や中秋節等の行事を時系列で説明するものが多かったため、使用数が多かったものと考えられる。このことは今後学習者コーパスを構築していく際に1つの課題を示している。すなわち、単文よりも複文の場合はその接続関係に、前件と後件の論理関係や時間関係といった意味関係を含んでいるため、産出される言語データは、課題となる作文のテーマに左右されやすいと考えられる。て形、基本形、の/こと節といった多様な意味関係に用いられる従属節と異なり、時間節や理由節のような状況により論理や時間を表し分ける形式の場合、文章のテーマや内容によって使用頻度がかなり異なってくるものと考えられる。

【主文にも制約のある従属節を用いる場合の誤用】

また、もう1つ注目したいのは、時間節の場合、使用数に比べ誤用の割合が多いということである。とくに中上級の時間表現の形式を用いる場合には、主文末の整え方等、制約の多いものについて完全に習得できていない例が見られた。

- (7) 中国は改革開放後、西洋と交流の機会がだんだん多くなったことに従って西洋式の結婚式典を行う若者も多くなっています。(cn040j)

随着改革开放的到来，中国接触西方的机会渐渐变多了，采取西方结婚仪式的青年人也渐渐多了起来。(cn040c)

- (8) ところで最近、たばこを吸う人が段段増えるにつれて、この要求はもっと厳しく見える。(cn063j)

但随着烟民的渐升, 这种要求就更显得苛刻了。怎么办好呢? (cn063c)

(7) (8) の例は、時間節のうち最も誤用の多かった「にしたい」「につれ」の例であるが、これらはいずれも従属節内の動詞の形だけでなく、主節の文末表現にも制約があるため、比較的難易度の高い従属節であると言える。(7) は「多くなるに従って」、(8) は「厳しくなっているように見える」としたいところである。学習者はこれらの従属節の意味に対応する中国語が「隨着」であるということは理解していても、個々の形式の用法を完全には理解、習得できていないと考えられる。

また、「にしたい」「につれ」と同じレベルの従属節として、「と同時に」もやはり使用数が多いにもかかわらず誤用の多い形式である。

(9) だから、基本的な権利をもらった同時に「別の人の健康のため」と言う義務はあるべきだ。(cn051j)

所以在得到了基本的权力同时, 也应有“为了他人健康”着想的义务。(cn051c)
中国語の「同時」は日本語の「と同時に」と意味的にも形的にも近いため、却って丁寧に習得されていない傾向の強い語の1つである。

【従属節に付く助詞に関する誤用】

時間節の誤用には、(10) のように「時」という接続詞の助詞を付けた「時に」「時は」等との相違を理解していない例も多く見られる。これは、多くの初級教科書で初出する「時」の従属節は「時」の形しか現れないことが多く、その後助詞を付けた形の用法や相互の違いを未習得なのではないかと考えられる。

(10) 春節は中国の最大伝統行事として中国人が春節を過ごす時一年中の中で一番嬉しい時です。(cn067j)

春节作为中国最大的传统节日, 过春节的时候是中国人一年当中最快乐的时候。
(cn067c)

(11) 子だちは道理をわかっていた時手おくれになったほうです。(cn085j)

当他们明白的时候, 为时已晚。(cn085c)

(10) (11) の例はいずれも理由は異なるが、「時は」とするのが適切である。(10) の「時」は名詞に近く「～ときは～ときです」という文型をとるが、(11) の従属節は「～時は」で設定時 (reference time) を表し、主文のアスペクトは「もう～していた」のような継続相となる。

【中国語の強調構文に関する誤用】

さらに、時間節と条件節が混在するような、中国語の強調構文の場合には、誤用が非常に多く難易度が高い。

(12) 花婿は友達たちと花嫁の家へ行って、花嫁の姉妹や友達に何回も頼んで、「紅

包」(お金が入る赤い紙封筒)を出してからさえ花嫁を連れて行ける。(cno19j)
 新郎和朋友到新娘家, 苦苦拜托新娘的朋友姐妹, 并发给“红包”之后才能带走新娘, (cno19c)

この例は中国語の強調構文「~之后才~」をそのまま日本語に翻訳した例と見られる例である。この構文の翻訳は、この調査とは別途行った翻訳の調査でも中級程度の学習者では正答率が極めて少なく、日本語能力試験1級レベル以上の学習者になって初めて「出してはじめて」「出さないと~ない」のような制限された条件を日本語で適切に表すことができる。

2.2.3 基本形の問題

基本形を選択しての誤用は塩入(2002)でも多く見られた、中国語母語話者に特徴的な誤りである。これは中国語の文接続をそのままあてはめたことによると考えられる例が多く、て形の誤用傾向と似ている。

【形容詞の接続に関する誤用】

(13) しかし、たばこを吸うことに慣れやすい、悪いと分かってても、やめにくなつた。(cn046j)

但吸烟一旦成为习惯, 想戒就难了。(cn046n)

(14) 人間の権利として、たばこを禁止することがおかしい、合理ではないのですが、「別の人と関係がない」言方がありますし、実は別の人と関係が本当に全然ありませんか?(cn051j)

作为人权, 禁止吸烟不是有点可笑, 不太合理吗? 虽然“吸烟是自己的事, 和别人无关”这种说法也有, 但是真的完全与他人无关吗?(cn051c)

(13)(14)の例は下線部の接続部分が形容詞であり、本来「慣れやすく」「おかしく」のような連用で接続するのが適切であると考えられる。

【文を終わらせるところを接続することによる誤用】

て形と同様に基本形も、文を接続する際に安易に選択しやすい形式の1つである。

(15) だから、全社会がこの問題を重視しなければならない、公共の場所ではたばこを吸わないべきです。(cn031j)

所以, 全社会都应该重视这个问题, 不在公共场所吸烟。(cn031c)

(16) 神様を迎えに人々は花竹につける、たいへん美しいです。(cn083j)

为了“接神”人们放起了鞭炮, 非常漂亮。(cn083c)

(15)(16)の例はいずれも中国語の対訳では文を終わらせずに続けている。日本語ではいずれの例も文を終わらせる以外に適切な接続方法は少ない。

2.2.4 理由節の問題

理由節についての誤用は、接続の形式が異なるものや、他の理由節を選択した方がよいもの等、いわば理由節内部での誤用が多いのが特徴的であった。また、「以上」「結果」のような中上級以上の形式を用いた際に不完全な文を産出しやすいのは、時間節と同様の傾向である。

【理由節内部での誤用】

(17) しかし、まだ千万の人は職業が特殊から、一家だんらんできない。(cn075j)

但仍有很多人由于工作，无法与家人团圆，(cn075c)

(18) 「中秋」と言うのは、秋の3ヶ月の真ん中にあたる月からです。(cn043j)

所谓中秋节也就是处于秋天第3个月中的那天，(cn043c)

(17) は「特殊だから」、(18)の主文も「月だから」のようにすべき例であり、名詞に接続する場合の誤用が多く見られた。

(19) 子供は両親を失うとか、たばこを吸う人は生殖できないとか、実は、たばこを吸うから引いた悲しい事件はもうたくさんだった。(cn063j)

实际上，由吸烟引起的悲剧事件已经有许多了。(cn063c)

(19) は「たばこを吸うことで／吸うことにより引き起こされた悲しい事件」のように、理由節でも「から」「ので」のような初級で習得するものは使えない例である。「により」「ことで」のような理由節は、中上級レベルの文法項目であるが、初級レベルの形式との異同を意識的に習得する必要があると考えられる。

【同形の従属節を用いる場合の誤用】

(20) しかし、誰にもたばこを吸う権利がある以上、誰にもほかの人にたばこを吸われていない権利もあるべきです。(cn054j)

但是，既然无论谁都有吸烟的权利，那无论谁也都有不吸烟的权利。(cn054j)

(21) たばこをよく吸うことの結果、人はたばこを依頼する。(cn014j)

经常吸烟的结果使人对烟草产生依赖感，(cn014c)

(20) は「以上」を用いて理由を強調しているのはよいのだが、主文末に蓋然性の高さを表す表現「はずです」を述べるべきところが、当為の表現「べきです」になっている。これも不完全な習得と言えるだろう。(21)の「結果」も、日本語にも中国語にも存在し、意味用法が非常に似ている形式である。しかしながら、日本語の「結果」の場合、まず「吸った結果」のように過去形に接続することと、主文も「依頼するようになる」のように、結果として生じた変化を表す必要がある。このような同形語は意識的に用法の違いを学習する必要がある。

2.2.5 条件節の問題

条件節は前回の調査でも誤用の多い形式であったが、今回の調査でも条件節相互の使い分けの習得が不十分な例が多く見られた。

(22) 除夜は中国人にとって、旧暦新年よりも大切だと言えばいい。(cn011j)

除夕夜对中国人来说, 甚至比大年初一还要重要。(cn011c)

(23) 兄もたばこをすっていますが、「部屋の中ではだめ」と言われましたから、すたいと、外へ出なければなりません。(cn034j)

哥哥也抽烟, 但是因为被告之“不能在屋内吸烟”, 所以想抽的时候不得不去外面。(cn034c)

(22) は「言ってもいい」、(23) は「吸いたかったら / 吸いたいときは」が適切であるが、それぞれ「ば」と「と」、「と」と「たら」あるいは「とき」の従属節の用法の異同に関する習得が不足していると言えるだろう。

また、今回条件節の誤用で見られた傾向として、「ては」「かぎり」のように初級で学習する「と」「ば」「たら」以外の、中上級レベルの条件節の形式は、やはり使用するのが難しいということである。

(24) 実は誰でも「タバコを吸っては健康に悪い」という一般的知識を分かっています。(cn018j)

其实, 谁都知道吸烟有害于健康, (cn018j)

(25) たとえば、作家、詩人などはタバコを吸うかぎり靈感を受けるのです。(cn018j)

烟对有些人来说是个好东西, 比如作家, 对他们来说只有烟才能给他们带来灵感, (cn018c)

(24) の例から、この学習者は「ては」従属節の主文が望ましくないことを表すことが多いのを一応学んでいると思われるが、「ては」が禁止(「てはいけない」等)を表す以外に条件節として用いる場合は個別の因果関係を表すのみで、一般常識のような恒常的な因果関係には対応しないことが多いということまでは未習得である。

また、(25) については、その中国語の対訳を見ると、「才能」という強調する表現を用いているので、それを表すために「かぎり」を用いたものと考えられる。この場合、「タバコを吸わないといいアイデアがうかばない」のように二重否定を用いて強調したり、「たばここそ」のようにとりたて助詞「こそ」により名詞を強調する方法があるが、いずれの方法も中級レベルの学習者には難易度が高いと言える。

2.2.6 引用節の問題

引用節の誤用の中では、まず (26) (27) のように、初級で学ぶ接続の形に誤用が多いが目立った。

(26) また、たばこの匂いが吸う人が慣れているので、違和感が感じないかもしれな

いが、その匂いに慣れない、あるいは、匂うと気持ちが悪くなる人も多いだと思ふ。(cn003j)

而且，我认为吸烟的人或许是因为已经习惯了烟味，所以不会感到任何不适，但是不习惯烟味或是闻到烟味会不舒服的人则是大有人在。(cn003c)

- (27) 子供がたばこを吸うとどうなるでしょうという考えで一度吸って、また二度三度、それからたばこを吸うことが習慣になる。(cn029j)

他们就有试的想法，最后，吸烟会成为他们的习惯，这会影响到他们的将来。(cn029c)

また、「とは」「というのは」という中級以上の形式の誤用も見られた。

- (28) 「たばこをやめろ」とは無理ですけど、「公共の場所で吸わないよう」とは筋が通るはずです。(cn034j)

“把烟戒掉”虽然有些过分，但“别在公共场所吸烟”应该合乎道理。(cn034c)

(28) の対訳を見てわかるように、中国語では「把烟戒掉(たばこをやめよう)」と「虽然有些过分(ちょっと無理だが)」との間に接続の表現はない。このような場合に引用節を用いたのは適切な選択であったが、「とは」と「というのは」との違いまでは学習していないものと見られる。

2.2.7 の／こと節の問題

「の／こと」節の用法は多岐にわたるため、誤用例も範囲が広い。今回の調査ではとくに顕著な誤用のパターンは見られなかった。接続の誤り(例(29))、「の」「こと」相互の選択の問題(例(30))、条件節や疑問節等、他の形式との間での選択の問題(例(31))等である。

- (29) 結婚の方式を別にして、どこでも同じのは今後二人の世界になります。(cn028j)

不提结婚的方式，在哪里都是一样的今后的生活是二人世界了。(cn028c)

- (30) まず、一番大切なのは人人のからだ。たばこを吸うひとがほとんど男の人です、ところが、女の人と子どもは男の人より悪い影響をうけるのは、ずっとおおいです。(cn086j)

首先，最主要的是对人的身体，吸烟者多为男性，但它对女性和小孩的影响远大于对男性的。(cn086c)

- (31) どううまくやって、ふたりの権利を守るのは、今の課題である。(cn006j)

怎样能二人的权利都得到保障，这就是现在要解决的问题。(cn006c)

(29) は「同じなのは」、(30) は「うけることが」、(31) は「守るのかは」がそれぞれ適切な表現である。塩入(2002)では「の／こと」節の誤用について論じたが、「の」「こと」の選択を決める主節の述語を4種に分類している。

2.2.8 その他

【比況に関する誤用】

比況を表す「～と同じ(ように)」の誤用に多く見られるのが、「同じ」だけで接続してしまう(32)のような例である。

(32) おたばこを吸う権利と同じ別の人のたばこを吸われない権利を邪魔してはいけませんでしょうか。(cn056j)

所以, 从另一方面来说, 其他人也有不吸烟的权利(不受他人香烟危害), 在您享有个人吸烟权利的同时也不能影响他人享有的不吸烟的权利。(cn056c)

しばしば指摘されるのは、日本語の「同じ」が「同じように」「同じくらい」「同じに」のように様々な形式を付随させて用いられることで、学習者にとってこのような多様な形式の習得が困難な点になっていると考えられる。

【逆接に関する誤用】

逆接節は「が」のように独立度の高い従属節を用いると、形の面ではそれほど難しいと考えられていないようであるが、不要な接続の問題も多い。

(33) 私は前の方が賛成しますが、つぎのように自分の見方を述べます。(cn015j)

我是赞成前者的, 下面想就自己的意见阐述一下。(cn015c)

(34) の例は会話であれば自然に用いられるかもしれないが、前置きや挿入等に用いる「が」を用いるためには、「私は前の方に賛成なんですが、次のように自分の見方を述べたいと思います」のように、前件が後件の説明であることを明示する「のです」等を用いる必要がある。

3 まとめ

本稿は作文対訳 DB を用いて、塩入(2002)の結果とも比べながら、中国語母語話者による日本語従属節選択の誤用傾向を明らかにしようとした。その結果、以下のことが考察された。

学習者コーパスを用いて従属節使用の傾向を考察する場合、従属節と主節の意味関係は作文等のテーマに大きく影響されやすいものと、そうでないものがある。影響されにくいもの(常に誤用が多いもの)は、て形、基本形、の・こと節、影響されやすいものは、時間節、条件節、理由節等意味関係を明示する節である。て形、基本形、の・こと節は、接続形式の選択に迷った場合、安易に選択しやすい形式である。また、中国語では従属節と主文の意味関係が明示されていない場合に選択しやすい形式でもある。

中上級で学ぶ従属節(「につれ」「とともに」等)は、その用法に制限の強いもの

が多く、習得が困難なために誤用が多いようである。

日中の同形語に近い従属節「同時」「結果」等は、その意味用法が日中両語で近似しているがゆえに、細部の理解が不十分で誤用となっているものが多い。

中国語特有の強調構文をそのまま日本語にすると、日本語の構文はかなり上級レベルの構文になることもあり、誤用につながることが多い。中国語で強調副詞を使用した場合も同様である。

4 今後の課題

今回は従属節選択に関する誤用傾向について、塩入(2002)に続けて中国語話者の誤用データを分析した。誤用例の数がそれほど多くないことやテーマによる言語形式の偏りの問題等もあるが、今後さらに誤用例を増やすことにより、誤用の傾向をより明確にすることができるだろう。

また、別の発展の可能性として、今回のデータを中国語以外の日本語学習者の誤用例と比較し、中国語母語話者の従属節選択に関する特徴を明らかにするという方向や、これまで活用してこなかった添削者による添削情報を考察の対象に加え、誤用の再考をしていく等の方向も考えられる。いずれも今後の課題としたい。

参 考 文 献

- 井上優(2002)『『言語の対照研究』の役割と意義』国立国語研究所編集発行『対照研究と日本語教育』
- 井上優(2003)「文接続の比較対照——日本語と中国語——」『言語』32巻3号、大修館書店
- 井上優(2006)「言語データとしての作文対訳データベース」『作文対訳データベースの多様な利用のために』「日本語教育のための言語資源及び学習内容に関する調査研究」成果報告書、国立国語研究所
- 大曾美恵子(2006)「日本語コーパスと日本語教育」『日本語教育』130号
- 国立国語研究所(1999)『日中作文コーパスの作成とその利用 論文とデータ』研究分担者、中野洋、文部省科学研究費「国際社会における日本語についての総合的研究」研究代表者水谷修、国立国語研究所
- 国立国語研究所(2001)『日本語学習者による日本語作文とその母語訳との対訳データベース(ver.2)』CD-ROM版
- 宇佐美洋(2006)「『作文対訳データベース』作成の目的とその多様な利用について」『作文対訳データベースの多様な利用のために』「日本語教育のための言語資源及び学習内容に関する調査研究」成果報告書、国立国語研究所
- 塩入すみ(2002)「ノ・コト節と中止節・条件節との誤用について」『東呉外語學報』東呉大学、p.173-196

- 寺村秀夫 (1990) 『外国人学習者の日本語誤用例集』 文部科学研究費特別推進研究「日本語の普遍性と個別性に関する理論的及び実証的研究」 分担研究「外国人学習者の日本語誤用例の収集、整理及び分析」
- 張麟声 (2001) 『日本語教育のための誤用分析 — 中国語話者の母語干渉 20 例』 スリーイーネットワーク
- 張麟声 (2007) 『中国語話者のための日本語教育研究入門』 大阪公立大学共同出版会
- 吉田妙子 (1994) 「台湾人学習者における『て』形接続の誤用例分析 — 『原因・理由』の用法の誤用を焦点として —」 『日本語教育』 84 号, p.92-103

Incorrect Selection of Japanese Subordinate Clauses by Chinese Native Speakers: A corpus study of student compositions

Sumi SHIOIRI

The *Learner Corpus*, a collection of output data such as foreign students' Japanese compositions and oral interviews, has attracted attention since the 1990s. As Usami (2006) points out, this corpus enables reliable quantitative analysis and also provides knowledge different from that derived from researchers' and educators' subjective experiences.

The data in the *Learner Corpus* are divided into spoken language and written language. The *Bilingual Database of Japanese Compositions and Their Translation in Learners' Native Language* (ver.2) (National Japanese Language Research Institute, 2001) used in this paper is a leading learner corpus of Japanese written language. It has distinctive features that make it superior to other learners' corpora: learners' native language translations and corrections of Japanese compositions. These features allow us to conduct a comparative study of learners' native language (Chinese) and their Japanese in order to examine any interference from their native language in their language acquisition process.

This paper aims to elucidate the tendencies of Chinese native speakers in choosing inappropriate Japanese subordinate clauses in a corpus-based analysis. The study analyzes 188 subordinate clause errors and suggests different results from those of Shioiri (2002) and identifies common tendencies among native speakers of Chinese.